

14日、赤穂浪士討ち入り 義士祭博多が元祖



赤穂浪士の討ち入りが行われた十月十四日に毎年、東京都港区高輪の泉岳寺で開かれる「義士祭」が、福岡市で始まったことはあまり知られていない。一九〇八(明治四十一年)の同日、同市博多区千代の崇福寺で行われた「第一回義士会」がその起源だ。第一回義士会から百年目に当たる今年、それにちなんだ催しも計画されるなど、じわかに注目を集めている。

(博多まちなか支局・山路健造)

1908年、九州日報に掲載

第一回義士会は、当時の九州日報(西日本新聞社の前身の一つ)社長兼主筆の福本日南(一八五七-一九二二)が提唱した。福本は、著書「元禄快談」によって国民的な忠臣蔵ブームの火付け役となったとされる。

〇八年十二月十六日の同紙は、十四日の義士会の様子を「黒田家御誓提所(崇福寺)に、今日、二百年前の義勇者を以て、遠近より



福本日南

来集するもの、老若男女併せて四百を算ふるに到つたと記載。福本や東郷福師(聖福寺住職)が講演し、般若湯(酒)とかゆを味わいながら、十五日未明まで浪士の忠孝について語り合った。

■第二回に途絶え
 義士会は「士気の鼓舞を以て目的とし、毎年十二月十四日の夜を以て開く」を規約に定めた。

提唱者の志 泉岳寺で継承



翌一〇年十二月十五日付の同紙は「理想化したる義士の事蹟」の見出しで、四十七をめぐる逸話の信ぴょう性を疑う文章を掲載。赤穂浪士を語ることは「社会教育上無用」と説いた。

福本が最初の義士会を

Pinと

その文言通り、九州日報は〇九年も同じ日に崇福寺で義士会があり、約五百人が集ったと伝えらる。ところが、同年末に福本が九州日報社長を辞して上京したのを機に、事情は一変したようだ。

福本市内では、毎年十二月十四日に南区寺塚の興宗禅寺通称「穴観音」で福岡義士会が催す義士祭が知られるが、これは三五(昭和十一年)に篤志家の呼び掛けで始まった。福本の義士会とは無関係という。

■100年記念行事
 福本自身は東京に移っても赤穂浪士の顕彰を続け、二年に研究団体を設立した。その後継である財団法人中央義士会(東京)が現在、浅野会(東京)と四十七を見る聖福寺と題して講演する。定員二百人、参加費千円。参加希望者は二〇〇七年の会(092-737)5430。



神田紅が義士伝を語ります。

福岡義士祭

主催・福岡義士会 TEL092・511・4231(天池公民館内)

◆日時 平成三十年十二月十四日(金) *参加無料

十一時頃 祭典・法要 (十時半 献茶)

十二時頃 奉納講演 神田 紅 赤義士伝より「赤垣源蔵・徳利の別れ」

◆当日は数々の奉納行事が行われます。

◆会場 興宗禅寺(穴観音) 福岡市南区寺塚二丁目二十二番一

*金印倶楽部は郷土の宝を未来につなぎたいと、金印大使・神田紅が義士伝を語り続けています。

講演師 神田 紅(かんだくれない)

福岡出身、修猷館高校卒、早稲田大学中退。昭和54年、二代目 神田山陽師匠に入門、平成元年真打昇進。日本講演協会会長。平成27年度 福岡市民文化活動功労賞受賞。ANAの機内にて、全日空寄席のご案内役を20年以上務める。

金印亭講談寄席へ

いらっしゃい!



出演 福岡紅塾 塾生

日時 平成30年 12月14日 (金)

開場 12時半 開演 13時

終演 16時半

場所 警固神社 春庭 (入って左の建物)

入場料 無料

ご自由にご来場下さい

入退場 自由

* 時は義士討ち入りの日、討ち入り後は打ち上げだあ!